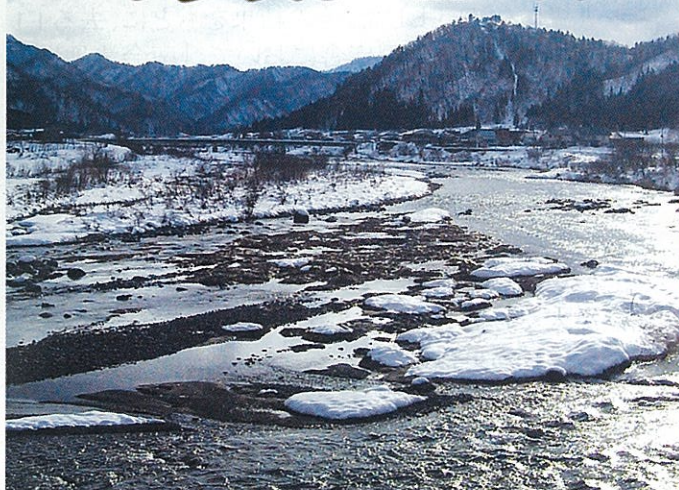


# 南会津 のうりんニュース



## 今月の写真：「伊南川」(南会津町伊南地区大手門橋)

昨年度の大雪とは違い、今年度の降雪はスタートが緩やかな様です(現在のところ…)。2年連続で雪害が出ているだけに、もう大雪は降らないだろうと思いたいところですが、「災害は忘れたところに…」と言われてます。

どちらにせよ、災害のない良き年であることを祈ります。

## 今月の内容：

- 新年を迎えて
- 今月のトピックス
  - ・ 下郷町の学校給食で地産地消が着実に前進!!
  - ・ 園芸用パイプハウス雪害対策検討会を開催!!
  - ・ 会津地方アスパラガス生産振興大会を開催!!
  - ・ ふくしま食・農再生戦略説明会を開催!!
  - ・ 山菜栽培への第一歩
  - ・ 毎月8日は「ごはんの日」をPR
- 南会津のこれが食べたい  
つと豆腐
- 集落営農推進情報  
南会津地域集落営農研修会を開催!!

平成19年1月17日発行 福島県南会津農林事務所



## 新年を迎えて

南会津農林事務所長 鈴木 伸司

新年明けましておめでとうございます。平成19. 年の新春をご家族お揃いでお健やかに迎えることと心からお喜び申し上げます。

ある年の1月1日、暖かな朝日がまぶしい空港で搭乗案内を待っていました。夕べはほとんど寝ていないので頭はボーっとし、上の脛と下の脛が今にもくっつきそうです。夕べといえば12月31日大晦日。11時半を過ぎた頃、ホテルの廻りで若者の歓声、クラクション、爆竹の音が賑やかになってきました。日本であれば除夜の鐘や初詣の時間です。興味津々、ラナイ(ハワイ語、ベランダの意)から覗いてみると多くの人が集まってきています。爆竹の音が一段と大きくなった時、突然カウントダウンが始まりました。10、9……ゼロと同時になんと海の上から花火が上がったのです。観客はワイキキの浜辺に座り海から上がる花火を楽しんでいます。年越しの催しも国によって違うなどと感じながら元旦の花火を満喫しました。飛行機に乗って8時間あまり。その日の午後成田に到着。日本時間1月2日午後1時。一年の計は元旦にあり。しかし、この年の私には日本の元旦は無いままで一年が始まってしまいました。

さて、今年は亥年。猪突猛進。前進あるのみ。……日付変更線を越えるたびにふっと頭に浮かぶのが、「80日間世界一周」。かなり古い映画なのでこれを

観たことのある人はそれなりのお年の人と言わざるを得ない。ジュール・ヴェルヌ原作。1872年のロンドン。典型的な英国紳士のフォッグ氏が仲間と80日間で地球を一周するという賭をし、召使いのパスパルトゥーと汽車、船などを使って再びロンドンに帰ってくる娯楽冒険物語である。もう一つこの映画のお楽しみは、往年の名俳優が多数出演していること。シャーリー・マクレーン、マレーネ・ディートリッヒ、バスター・キートン、フランク・シナトラなどみんな若くきれいでカッコいいですよ。必死になってロンドンに帰ってきたが、彼の手帳には81日目の日付となっていた。しかし、彼は賭に勝利したのである。もうおわかりと思うが、彼はロンドンからパリ、スペイン、スエズ運河を通り、インド、香港、日本、そしてアメリカ大陸を經由してロンドンに戻ったので、地球を東回りに1周したのです。横浜からサンフランシスコまで船で渡った時、彼は日付変更線を越えていました。

話がそれてしまいましたが、今年の幸運の方向は東かな?などと考えています。根拠はありません。日本から見て東の太平洋のまっただ中にある島が大好きなだけです。今年は猪にあやかり、まっすぐ前を見て目標に向かって進みたいと思っています。

最後になりましたが、平成19年が皆様にとって明るくそしてすばらしい良い年でありますように!!



## 下郷町の学校給食で 地産地消が着実に前進!!

去る12月14日に、下郷ふれあいセンターにおいて、下郷町学校給食等地域産品利用検討会が開催されました。

この検討会は、「下郷町学校給食共同調理場」と「直売所よらっしえ」、「JA会津みなみ」及び「下郷町林業振興協議会」とが連携し、学校給食に地元の農林産物を積極的に利用することなどを検討するため、昨年度設立されたものです。



今回の検討会では、平成18年度における下郷町学校給食共同調理場への地場産農林産物の納入状況や食材納入における課題などについて話し合われました。

その結果、昨年度に比べ学校給食における地場産農林産物の利用率が向上していることが確認されたほか、学校給食のメニュー表を生産者側へ情報提供することにより、生産者の生産意欲が向上し、更に地産地消が推進されるのではないかといった活発な意見が出されました。

検討会の最後には、今後も年2～3回の頻度でこの検討会を開催し、生産者・学校給食側それぞれの課題をひとつずつ解決していくとともに、子どもたちに安全・安心な地場産農林産物を継続的に提供するように確認されました。

(地域農林企画室)

## 園芸用パイプハウス雪害対策検討会を開催!!

南会津地域では、昨年、一昨年と大雪によりパイプハウスが倒壊するなどの被害が続出し、トマト生産者やカスミソウ生産者は大きな打撃を受けました。

雪害を最小限にとどめるために、昨年5月に雪害に関する調査を行いました。その結果をもとに、去る11月29日、県南会津合同庁舎において、「南会津地域園芸用パイプハウス雪害対策検討会」を開催し、この冬の対策について検討しました。会議には生産者代表、JA、町役場、県農業総合センターなどが参集しました。



その中で、パイプ口径が太くとも必ず被害を防げるとは限らないこと、むしろ積雪の高さが重要な要素であること、ハウス屋根部やハウス間の除雪が重要であること、などが確認されました。また、県農業総合センターより、今年度、着雪防止塗料や撥水塗料による着雪防止の試験を行う旨、説明がありました。

これらの内容については、去る12月20日のトマト講座でも説明を行い、多くの生産者の方に聞いていただきました。

雪害対策については、残念ながら今のところ確実なものはありません。県では、今後も雪害対策の最新情報を収集するとともに、被害ゼロを目指し、技術対策等の開発・普及に取り組んでまいります。生産者の皆様も積雪状況を確認の上、出来る限り除雪作業を行っていただくなど、対応をよろしくお願いします。

(農業普及部)

## 会津地方アスパラガス生産振興大会を開催!!

南会津農林事務所と会津農林事務所および全農福島会津営農事業所との共催による、全会津を対象とした会津地方アスパラガス生産振興大会が、去る11月30日に湯川村にある会津農業共済組合大会議室で開催されました。

南会津地方からは、生産者35名、関係者15名が参加し、総出席者数276名の盛大な大会となりました。

この大会は、アスパラガスを会津地方における重要園芸作物として位置づけ、現状では反収が低く、一時的に出荷が集中する作型を見直し、長期出荷と反収向上を目指して行われました。

基調講演では、「JA秋田ふるさとのアスパラガス振興方策」と題し、JA秋田ふるさと佐藤譲営農支援課係長が、JAの取り組みやJA秋田ふるさとアスパラガス部会の活動内容を中心に講演されました。

パネルディスカッションでは、会津地方の4JAか



パネルディスカッション

ら生産者各1名がパネラーとなって事例発表を行い、南会津地方からは、南会津町の星忠明さんがパネラーとなり経営内容や工夫している点、反収向上にあたっての考え方などを発表されました。

その後、活発な意見交換があり、盛会のうちに終了しましたが、この大会をきっかけに、会津地方が日本一のアスパラガス産地となるよう期待いたします。

(農業振興部)



## 🌿 Fukushima Food & Agriculture Regeneration Strategy Explanation Meeting is Held!!

去る12月25日に、県南会津合同庁舎において、ふくしま食・農再生戦略説明会を開催しました。ふくしま食・農再生戦略(以下「再生戦略」という。)は、本県における過去の農業情勢等を振り返ったうえで、今後の本県農業の目指すべき方向を示すものであると同時に本県農業再生の鍵を握るものとして位置づけられるものです。

説明会では、県庁農林水産部農林企画グループの職員により、再生戦略の内容を農業者・消費者・関係機関・団体の方々に説明するとともに、併せて意見交換を実施しました。

## 🌿 山菜栽培への第一歩

平成17年に伊南地区の有志の農業者で設立した「伊南地区山菜きのこ研究会」は、今年度からワラビの栽培に取り組むことになりました。



11月20日、耻風集落において南会津町伊南総合支所支援のもと研究会員を対象にしたワラビ栽培指導会が開催され、農林事務所職員によるワラビの根株の特徴や栽培方法の説明につづき、県林業研究センターから提供を受けた「アクの弱いワラビ」の根株約200株を植え付けて根株の増殖畑を造成しました。その後、町職員から11月13、14日に長野県で開催された山菜文化産業研修会で紹介された各種山菜の栽培事例が報告され、今後の活動について意見が交わされました。

研究会員の山菜栽培への意欲は高く、指導会後間もなく、館岩地区から青ワラビの根株を譲り受け、植え付けも行われています。今後はワラビの栽培を足掛かりに他の山菜やきのこの栽培にも取り組んでいく予定です。

(森林林業部)

説明終了後、会場からは、「農業従事者の高齢化が進み農業生産力が低下するなか、担い手育成が課題であり、特に新規就農者に対する助成が重要である。」などの意見が出されました。



今後は、農業者・消費者・関係機関・団体の方々からいただいた意見を各種施策に反映させていく予定です。なお、再生戦略の概要は今月に、別途パンフレット等で皆さんにお知らせいたします。

(地域農林企画室)

## 🌿 毎月8日は「ごはんの日」をPR

去る11月8日、12月8日の2日間、ヨークベニマル田島店、リオンドール田島店前において毎月8日の「ごはんの日」と、福島県オリジナル品種「ふくみらい」のPR活動を行いました。

県では、平成13年に、ごはん食の良さと栄養バランスの取れた「日本型食生活」をアピールし、福島のお米の一層の消費拡大を推進するため、「もう一杯！元気な手がでるふくしまごはん」をキャッチフレーズに、毎月8日を「ごはんの日」と定め、福島のごはんをしっかりと食べていただくように呼びかけています。

当日は買い物客を対象に、「ごはんの日」のパンフレット、新米の「ふくみらい」(500g入り)300個を無料配布しましたが、あっという間に完配でした。

これからも、主食であるごはんを中心に地元で取れた四季折々の食材を使って、バランスの取れた食生活で健康を保ちましょう!!

(農業振興部)



## 南会津のこれが食べたい!!

蕁苞(わらつと)でつくる豆腐

## つと豆腐



「苞(つと)」とは、「わらなどを束ねて、その中に食品を包んだもの」との意味です。

普通の豆腐を細長く切り、それをわらで包み、塩を入れた湯で20分煮ると出来上がります。昔、柔らかい豆腐を運ぶときに豆腐を苞に入れていましたが、たまたま苞に包んだまま煮たのが誕生のきっかけだといわれています。普通の豆腐よりも日持ちがよい

のが特徴です。

わらの風味に加え、煮くずれしにくく味が染み込みやすくなることから、「煮染め」料理などにはかかせません。

「つと豆腐」の作り方は、南会津農林事務所ホームページを御覧下さい。

つと豆腐 農林

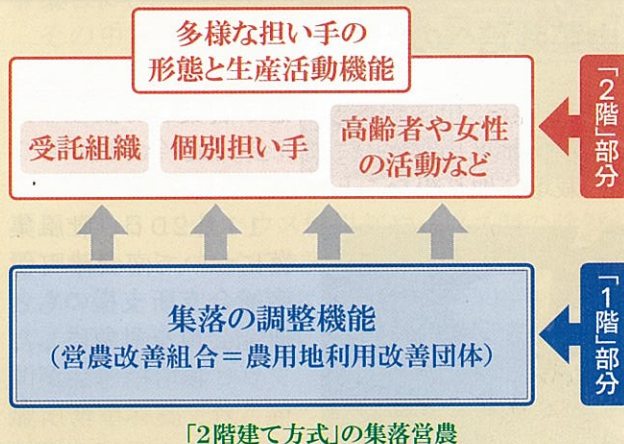
検索



## 南会津地域 集落営農研修会を開催!!

去る12月7日に、集落営農に関する研修会を南会津町田島地区の御蔵入交流館で開催し、管内の農業者など約150名の参加がありました。

まず初めに、山形大学農学部教授の楠本雅弘先生から、「元気な農業が活力ある地域を支える」と題して講演していただきました。集落みんなの話し合いが基本の集落営農を上手に活用して元気な農業、元気な集落を実現しようという内容で、2階建て方式による集落営農の進め方をわかりやすく講義されました。特に、①個別担い手への農地集積による集落営農、②受託組織等による集落営農、または③これら①と②を組み合わせた形の集落営農など、取り組み方には集落の状況に応じた様々なやり方がありますが、最も大切なことは、1階部分の集落の調整機能を持った農用地利用改善団体を話し合いの場として集落の将来について十分話し合い、みんなが納得して進めるということです。



「2階建て方式」の集落営農

続いて、集落営農に取り組む先進事例として渡部善正氏(下郷町芦ノ原集落)、酒井久氏(南会津町鴉巣集落)、佐藤裕一氏(会津坂下町広瀬谷地集落)がパネラーとなり、五十嵐農業普及部長のコーディネーター、楠本教授の助言のもとパネルディスカッションが行われました。集落営農の取り組み方等に活発な質問・意見が出され、有意義な研修会となりました。

今回の研修会を踏まえ、平成19年2月6日(火)午後1時半から只見町明和地区センターにおいて、「南会津地域むらづくりセミナー」を開催します。

セミナーでは、山間地域におけるむらづくり、個別担い手型の集落営農による農地維持・集落の活性化などをポイントに事例発表と参加者との意見交換を行う予定です。多数参加をお待ちしています。

(農業普及部)



楠本教授の講演



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

R100

PRINTED WITH SOY INK™

古紙配合率100%再生紙を使用しています  
この広報誌は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。